

自己評価シート【東山児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（１） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館の理念、基本方針はパンフレットや児童館入り口等の掲示に明文化されている。入口近くの壁には『こども会議』の内容が掲示されており、目黒子ども条例に則り、児童館運営が子どもの権利を尊重して行われていることが利用者にわかるようにしている。
1－1－（２） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
明文化され誰でも読めるようになっている。初めての利用者には、口頭でも説明を丁寧に行っている。	子どもたちには、日常から簡単な言葉で説明をしていく。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（１） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館の理念と目的は、毎年度の係の目標や年間事業計画に取り入れている。

2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	一人で来館してもグループで来館しても、好きな遊びができるように準備をしている。図工室では材料を豊富に準備し、子どもたちは自由に思い思いの工作を楽しんでいる。プレイルームでは子どもたちと遊び決めをして、少数意見も含め子ども達の意見を尊重している。
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) - (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	子ども会議では子どもの権利について毎回説明しており、遊びや工作の希望など活発に意見をもらっている。また日頃から子どもたちの困りごとや相談を職員にしやすい関係作りをしている。ふれあいボックスへの相談利用は、主任児童委員と連携協力して、活発に行われている。
2-1-(4)	
児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
子ども達の居場所となっており、来館者が多く一人でもグループでも家族と一緒にでも安心して遊びに来られている。	来館者が多いので、特にプレイルームでは不公平にならないよう意見を整理する必要がある。少数意見を大事にするために、その日の遊びのメニューに子どもの希望をできるだけ多く入れるようにしているが、忙しい子どもたちは「今」やれないと帰ってしまうことも多く苦慮している。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。

【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】 ☐ a)、 ☒ b)、 ☐ c)	実践例（取り組みや記録等） 職員間で一人ひとりの子どもの様子を伝え合い、必要な情報は記録を残し共有している。その子どもに合わせた働きかけを工夫しながら、育成を行っている。しかし、1年生や転校生などまだその子どもの心身の状態を把握していない時期に、職員の真意が伝わらずに「強く注意を受けた」と感じさせたことがあった。
2-2-(2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】 ☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	実践例（取り組みや記録等） 図工室で作ったオリジナル作品を使って、児童遊戯室の積み木で仲間とごっこ遊びをするなど、部屋を越えて遊びを作り出している。プレイルームでは子どもたちに遊びを知ってもらうために週1回カンタタイムとして、子どもたちがまだ知らない遊びを中心に紹介し遊んでいる。カンタタイムで基本の遊びのルールを知った後は、自分たちでさらに楽しめるように独自のルールを作って遊んでいる。
2-2-(3) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

☑a)、□b)、□c)	プレイルームでは異年齢で集団遊びをする際、職員に言われなくても上級生がボールのスピードなど下級生に配慮して遊ぶ姿がある。また、遊びの意見が学年や男女で違うことがあるが、お互いに意見の違う遊びに付き合っていて楽しもうとしている。プレイルームで仲良くなった異年齢集団でボードゲームやカードゲームをする場面があり、お互いにルールを教え合ったりしている。
2-2-(4) 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
一人ひとりが好きな遊びを見つけて、工夫したり真似したり、教え合ったり、上手になろうとしたりする姿がある。	子どもの人数が多く、お互いに名前が分からないまま遊んでいる。仲良しのグループ以外は関心を持っていない子どもが多く、職員が間に入って仲間意識を育てていきたい。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。	
(b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。	
(c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☑a)、□b)、□c)	事故には複数の職員で対応し、事後に対応の共有をしている。感染症対応ではせき込んでいる子どもにはマスクを貸与したり、小学校・中学校の学級閉鎖の時には受付で学級の確認をするなど、感染拡大防止に努めている。近隣の不審者情報があつた際には、警察からの情報収集と児童館係へ連絡の上、来館児童保護者に迎えの依頼や帰り方の確認を行った。
2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。	
(b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。	
(c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☑a)、□b)、□c)	毎月、災害や防犯を想定しての避難訓練をしている。各部屋での事故防止のため、遊びによっては人数制限をしたり、工具の利用場所を指定したり、安全のためのルールを決めている。